

都農町ひょうすんぼ協同組合を活用した労働力確保(事例2)

【取組の経緯】

- ・株式会社都農ワインは、平成6年に都農町のぶどう栽培農家を支援するために、町、JA、漁業協同組合、商工会などを株主とした第三セクターとして設立。
- ・平成8年11月にグランドオープン
- ・町からひょうすんぼ協同組合設立の話があり、設立当初から組合員として参加。

【取組の概要】

- ・当社は、原料ぶどうの栽培からワインづくりまで一貫して行っている。
- ・原料ぶどうについては、自社農園約9haで16品種を栽培、また、契約農家40戸からの買取を行い、40種類のワインを製造している。
- ・ぶどう栽培については、2月から9月まで、剪定、芽かき、誘引、収穫、醸造と作業が継続しており、労働力確保に関しては、正社員・契約社員11名のほか、ひょうすんぼ協同組合から2名の職員を受入。
- ・組合派遣社員2名のうち1名は、都農町地域おこし協力隊員として移住し、地元サッカーチームでプロ選手として、また、農業班リーダーとして農業に従事していた。また、地域おこし協力隊任期後に、将来、就農(ぶどう栽培)希望があり、そのために、ひょうすんぼ協同組合の職員となり、現在、当社栽培部門で受入。

【今後の事業展開】

- ・今後は、地元との交流促進や町外からの集客のためにもワイン醸造以外に観光施設など整備、また、直売所販売比率を高め事業を拡大していきたい。
- ・現在の派遣職員受入れをモデルケースとして発展させ、事業の拡大を図りながら、新規就農者や担い手確保につなげていきたい。



新規就農を目指す
派遣社員の大竹さん

代表取締役の
赤尾さん



ワイナリー



ぶどう畑